



鹿児島にて 著者、樺山、黒田、大いに語る。

写真提供・佐伯泰英事務所

戸双紙」の完結後、多くの
う一つは、「居眠り磐音 江
戸双紙」の完結後、多くの
年齢を考えて、新作に手
をつけることなど、もはや
ないと心に決めていた。が、
変心した。

新作『声なき蟬』
新作を書いた。「新・酔
いどれ小籠次」以来、約二
年半ぶりか。

「空也十番勝負 青春篇」
上・下巻『声なき蟬』は、
物語が始まる。「居眠り
磐音」の第二部ではないと、
作者は心に決めて書き始め
た。だが、磐音の嫡子を描
く以上、磐音ファミリーの
登場なしでは済まされな
い。それゆえ、続編とお考
えになる読者がいるかもし
れない。さりながら磐音の
視点ではなく十六歳の空也
の眼を通して物語が展開さ
れていく。故に新作なのだ。
日向、肥後、薩摩の国境

佐伯通信

2016年11月(平成28)

第35号

発行

佐伯泰英事務所
担当/角川春樹事務所
禁・無断転載

読者から「次を」と熱望さ
れたことだ。

を取材した。

驚いた。亡父の故郷が峠の頂きの向こう、数キロのところにあるではないか。私が六、七歳の折、亡姉（五つ年上、だった）に連れられて北九州市の折尾駅から満員の夜行列車に乗り、一夏を過ごした熊本県球磨郡の父の実家が瞼に浮かんだ。戦後のことだから六十数年前だ。

肥後と薩摩はかようにも近く、かようにも遠い（ただ距離の問題ではない）のか。
取材に来る前に考えてい
た展開を捨てた。

今一つ、報告がある。来春正月二日夜九時、NHKで何クールにもわたり放映してきた「陽炎の辻」ファイナル九十分が放映され、完結する。新たな物語が展開する折、お互いにうれしい援軍だ。作者が甲羅を経たように、磐音もおこなも奈緒も困難を乗り越え齢を重ねてきた。その人生の積み重ねを映像でご覧下さい。映像と活字、二倍にして、いや十倍楽しんで下さい。

7年ぶりにテレビに登場、ついに完結!
陽炎の辻 完結編
～居眠り磐音 江戸双紙～

正月時代劇
NHK総合テレビ

磐音、意次、定信、三者三様の
「父子の誓い」を胸に秘め、
最終決戦の幕が上がる!
2017年1月2日(月)
よる9時~10時29分(予定)

最新情報をお見逃しなく!
江戸双紙
公式サイトが
新たに
オープン!
▼
新刊情報やイベント、読者参加企画なども随時アップします!
<http://inemuriiwane.jp/>

出版社からのお知らせ 双葉文庫

「佐伯通信」第36号は、1月6日刊行
予定の「空也十番勝負 青春篇「声なき蟬」上巻」(双葉文庫)に入れます。

旅と読書

(株)角川春樹事務所 書籍編集部 原 知子



山城淀藩の家来が辻斬りに遭ったらしい。だが、山城淀藩はそれをひた隠しにしていた……。犯人は? そしてその目的は? 宗五郎、政次、若手の弥一ら、金座裏は『お断り』でも大活躍します。

一方、豊島屋十右衛門の祝言が江戸と京で挙げられることになり、松六や清蔵やおみつらが、京行きの話で盛り上がっています。江戸の人々にとって、京への旅は、一大事です。冥土の土産にという、松六の言葉もうなずけます。

佐伯先生は今年、取材のために日向、肥後、薩摩を旅されたそうですが、沢山の収穫があったとお聞きしております。

旅は、新しい自分や価値観に出会うものでもありますが、人生の積み重ねもまた、見える景色や想いを一層深めるものだと思います。

そして、それは読書についても言えることだと、『吉原詣で』の読者プレゼントの際に、皆様から多く寄せて頂いた感想を読み、強く思いました。

「鎌倉河岸捕物控」シリーズを支えて頂いております皆様、本当にありがとうございます。今後とも引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。

<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト



2016年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと発行いたしました。
(株)角川春樹事務所、(株)双葉社、(株)光文社、(株)新潮社、(株)文藝春秋

佐伯泰英／近刊のお知らせ

2017年
2月

10日

2017年
1月

6日

11月

29日

『大晦り』
おおつごも

(仮)

新・酔いどれ小籠次

7

《文春文庫》

9『春雷道中』

12月1日
8『龍笛嬌々』酔いどれ小籠次
〔決定版〕

※発売日は予定です。なお、1月6日の発売予定は、一部地域を除きます。

『声なき蟬』
〔上・下〕「佐伯通信」第36号が上巻に入ります。
(初版の初回出荷分にのみ挟み込み)

空也十番勝負 青春篇

1
2

《双葉文庫》

新・古着屋総兵衛
『虎の尾を踏む』

13

《新潮文庫》

《祥伝社文庫》

新装改訂版

『完本 密命』

発売予定

11月11日

〈巻之十七〉『初心 閣参籠』
やみ さん ろう

12月14日

〈巻之十八〉『遺髪 加賀の変』